

那賀町地域再生塾

事業のポイント

■ 那賀町で活動している「地域再生塾」に更に学習の機会を提供し、より効果的な市民活動となり積極的な展開を促すほか、那賀町と連携した地域活性化に取り組む。

事業の概要

1. 事業の目的

那賀町地域再生塾は、地域再生塾の塾生（那賀町民）で組織する「地域再生塾丹生谷応援団」と協働し、活動を指導、支援することを通して、那賀町における地域再生人材育成と地域の活性化を図ることを目指している。

2. 事業の取組状況

①おもてなし英会話教室（アイリーンのOh-Henro-san!!

Try 一口 Japanese Notebook）

ハワイ在住の東條アイリーンさん及び徳島大学の留学生と協力し、平成29年に町民を対象とした「おもてなし英会話教室」を開講した。その一環として、外国人と住民を結ぶツールとして、普段よく使う日本語を英語で説明した『アイリーンのOh-Henro-san!! Try 一口 Japanese Notebook』を制作した。日本語の使い方について写真を用いて解説しており、この写真を専用のスマートフォンアプリで撮ることで、使用例を動画で見られることもできる。本冊子は那賀町内の「道の駅鷺の里」、「道の宿そわか」の他、「二番札所 極楽寺（鳴門市）」で配布している。



②那賀町と連携した「那賀町の新しい観光推進事業」

四国霊場の第21番札所「太龍寺」を訪れるロープウェイ利用客に、同寺の奥の院「黒瀧寺」を参詣する観光ルートを提案し、那賀町深部まで誘導する事業に取り組んでいる。

(1)丹生谷秘帖プロジェクト

これまでに、丹生谷（那賀町）のパワースポット（太龍寺、水崎廻り、黒瀧寺）にAR（拡張現実）技術を活用した高札看板の設置や、道の駅 鷺の里に太龍寺から奥の院黒瀧寺へと巡るルートを記した「丹生谷秘帖3Dトリックアート看板」の設置を行ってきたが、新たに巻物を模した観光案内パンフレット「丹生谷秘帖」を制作した。



事業代表者・連絡先

山中 英生（人と地域共創センター・センター長）

〒771-5406 徳島県那賀郡那賀町延野字王子原31-1

tel: 050-8804-3990

e-mail: ouendan@whk.ne.jp

また、丹生谷秘帖により親しみを持っていただくため、道の駅鷺の里に「顔出しパネル丹生谷秘帖」を設置した。



(2)那賀町PRビデオの制作

平成29年から那賀町のPR動画を制作している。

令和元年度は、若者目線で那賀町内の名所を紹介する「那賀町探訪 ～モナとマヒナの夏休み編～」を制作。

平成29、30年に制作した動画は、徳島県が開催する「ICT（愛して）とくしま大賞」で奨励賞を受賞している。動画は町内の道の駅（鷺の里、もみじ川温泉）の他、YouTubeでも公開している。



③「木頭ゆず」絵本プロジェクト

木頭果樹研究会が作成した『ゆずロードを求めて～木頭ゆずの起源～』と『ユズの大バカ』に挑戦した人々』をもとに、木頭ゆずについてわかりやすく知ることができる子供向けの絵本を作成しており、「中学生が小学生に読み聞かせる絵本」をコンセプトとしており、第一稿が完成している。今後は実際に小中学生に読んでもらうことも視野に入れており、更に完成度を高めていく予定である。

3. これまでの取組状況

① ゆずばあちゃん： 那賀町の特産農産物「木頭ゆず」を町のイメージキャラクター化した「ゆずばあちゃん」や町名を活かしたキャッチフレーズ「なかは なかなかいいなか」を提案、町内の観光施設鷺の里の観光案内板等に採用されている。

② はんごろし： 地域で使われてきた「おはぎ」の呼称を復活させた「はんごろし」は、町外イベントでも早々に売り切れ、町内の和菓子店に町外からの引き合いがあるなど、地域発の名物としての評判が定着している。

③ かきまぜ： 郷土料理の「かきまぜ」を「柚子酢（木頭柚子の果汁）を使ったちらし寿司」と定義してPRしたところ、「かきまぜ丼」「かきまぜセット」等の名称で提供する飲食店（道の駅 鷺の里・菩提樹）も出てきている。

④ なかはなかなかいいなかAR写真展： AR技術を活用し、那賀町の観光名所等を紹介するAR写真展を、主に那賀町内のイベントや道の駅で開催している。

⑤ 棚田復活への挑戦： 耕作放棄された那賀町相名の棚田の復活を目的として、4年間田植え体験等の試みを実施してきたが、イノシシによる獣害や担い手不足等の課題の克服が困難であり中止となった。

上勝学舎

事業のポイント

■ 四国で最も人口の少ない町上勝町において、持続可能な地域づくりのため徳島大学と上勝町との包括協定に基づき展開する事業。

事業の概要

1. 事業の目的

上勝学舎事業は、平成21年にスタートした。令和元年度は、上勝町の地域資源である森を活用した子育て支援及び新しい学びの場づくりを目指す「森の学校プロジェクト（上勝自然学校もりのべ）」を推進した。その他、エシカル消費を実践的に学ぶ「エシカル消費スタディツアー」を開催した。

2. 事業の取組状況

①森の学校プロジェクト（上勝自然学校もりのべ）

上勝自然学校もりのべは平成28年度末に発足し、平成29年度に本格開始。令和元年度で3年目となる。今年度も継続し、徳島大学教養教育院授業「学校をつくろう」との連携により事業を展開した。

● 森のキッチンづくりワークショップ

（4月21日・29日・30日）

上勝自然学校もりのべの学生スタッフとなる授業「学校をつくろう」の履修学生に、フィールドとなる上勝町市宇を知ってもらい、また地域の方と交流を深めることを目的に市宇の森の散策、キッチンづくりワークショップを行った。

● もりのべフィールドワーク（5月18日）

キッチンづくりワークショップに引き続きフィールドワークを実施。地域の方から市宇の森の案内やアウトドアキッチン棟の棟上げの指導等をいただいた。



● もりのべ初夏キャンプ（6月23日）

米国オレゴン州ポートランドのパーマカルチャー子ども教育研究所のマット・ビボー氏をゲストに迎え、もりのべ初夏キャンプを開催した。

子ども達の好奇心が刺激され、自然を楽しみながらどんどん積極的になっていく様子が見て取れた。

事業代表者・連絡先

山中 英生（人と地域共創センター・センター長）

〒770-8502 徳島県南常三島町1-1

tel: 088-656-7651 fax: 088-656-9880

e-mail: cr-office@tokushima-u.ac.jp



● もりのべサマーキャンプ（8月21日～24日）

初夏キャンプに続き、米国オレゴン州ポートランドからマット・ビボー氏をゲストに迎えて、3回目となるサマーキャンプを開催した。

8月21、22日は草、土、木々や地面に鼻をくっつけ、手で触る等、全身を使って森を感じ、森に学ぶプログラムを行った。また8月23、24日は徳島大学病院小児科の小児糖尿病の子ども達と医師・医学部学生が参加し、森の学校を体験した。

子ども達は普段と異なる環境で思い切り遊び、いろいろな人とコミュニケーションをとることで、新たな気づきを得て、様々な側面で良い刺激になった。



②エシカル消費スタディツアー（9月11～13日）

近い将来、商品やサービスを提供する側になる大学生が、ゼロ・ウェイストとソーシャルビジネスの上勝町で、エシカル消費について実践的に学び、社会に働きかけるアクションを自分ごととして考える3日間のスタディツアーを開催。

徳島大学及び他大学の学生11名が参加し、上勝町のゴミステーションや葉っぱビジネスいどり農家等の見学を行った。その上で、エシカル消費を推進するために自分は何をするか/何ができるかを考えるグループワークを行い、最終日には上勝町内の関係者に発表を行った。



徳島大学・美波町地域づくりセンター

事業のポイント

■人口減少、津波防災などの課題を抱える美波町において、大学、地域行政、住民との連携を推進し、美波町における地域づくりをすすめることで、大学における地域貢献拠点としてのモデル発信を目指す。

事業の概要

1. 事業の目的

当センターは、2013年7月に、徳島大学と美波町との「持続可能なまちづくり」をテーマとした連携協定の活動拠点として、美波町役場由岐支所3階に開設した。徳島大学と美波町が連携し、知的・人的資源の活用と交流を図り、相互に協力して地域の発展と人材の育成に寄与する。

2. 事業の取組状況

① 研究員が駐在し研究活動の実施

当センター事務室に研究員が駐在し、美波町由岐湾内地区における事前復興まちづくり活動の参与型分析を行っている。令和元年度は、2019年第36回歴史地震研究会（徳島大会）、第22回2019年度日本環境共生学会学術大会、日本災害情報学会第21回学会大会等で研究発表を行った。なお、研究論文「井若和久・山中英生・浜大吾郎・奥嶋政嗣・渡辺公次郎：津波脅威下にある沿岸集落におけるリスク分散型近居に向けた実践とその展望、環境共生、Vol.33、pp.5-12、2019」が、2019年度日本環境共生学会賞「論文賞」を受賞した。

② 持続可能なまちづくりに関するシンポジウムの開催

持続可能なまちづくりの啓発や交流を兼ねたミニシンポジウムを開催している。令和元年度は、「美波町自主防災会連合会防災講演会」（8月23日）、「事前復興まちづくりサミット2020in美波町」（1月12日～13日）、「令和元年度第4回在住外国人を対象とする防災ワークショップin美波」（2月23日）を開催した。また、徳島県南部総合県民局主催の令和元年度四国の右下防災旬間において、「ショッピングプラザアピカ防災ブース」（12月7日～8日）および「防災まつり2019」（12月20日）に出展した。

③ 『美波共創塾』の設置および運営【新規】

美波町と徳島大学が協働で、“美波町の将来像を実現するために、多様な主体と新しい価値を「共」に「創」り上げていくオープンな場”として、新たに『美波共創塾』の設置および運営を行った。具体的には、地域住民と協働する職員育成において、美波町と協働で職場改善及び人材育成に関するアンケート調査を行い、その結果に基づき役場職員の人材育成プログラムの検討を行った。また、地域の宝である次世代育成において、由岐小学校5・6年生および日佐小学校5年生を対象に、総合的な学習の時間を活用した年間カリキュラムを作成、計20回、延べ490名に授業を行った。さらに、町外の交流・関係人口の創出において、防災視察先進地である由岐湾内地区を対象に、自主防

事業代表者・連絡先

山中 英生（人と地域共創センター・センター長）
〒779-2103 徳島県海部郡美波町西の地字西地50-1
（美波町役場由岐支所3階）
tel / fax: 0884-70-1274
e-mail: tokushima-minami@tokushima-u.ac.jp

災害並びに地域おこし協力隊と協働で視察研修パンフレットを作成、計15回の視察受入を行った。

④ 美波町の自主防災活動の支援

美波町自主防災会連合会および由岐湾内3地区自主防災会連合会の事務局支援を行っている。令和元年度は、前者については、美波町避難所開設・運営訓練（11月16日）や県外視察研修（2月8日～9日）等の支援を行った。また後者については、避難まつり2019（4月29日）や夏休み防災教室（8月9日）、南海トラフ沿いの異常な現象への防災対応ワークショップ（4月13日、5月29日）等の支援を行った。

⑤ 美波町地域づくりの支援

平成30年度引き続き、美波町と協働で地域づくりの支援、地域づくり情報の収集、地学官協働の機会を目的として、「美波町地域づくりワークショップin西の地」を開催した。

⑥ 牟岐町防災サークルの支援

牟岐町在住の小中高生や学校教員、自主防災会、徳島県南部総合県民局等と連携して発足した牟岐町防災サークルの活動支援を行っている。令和元年度は、夏休みの防災自由研究の支援および1泊2日の日程で「牟岐BOUSAICAMP」（1月17日～18日）を開催した。

⑦ その他（講師、委員等）

徳島県内外での防災まちづくりに関する講演会等の講師を計22回務め、また徳島県復興指針検討委員会等の委員会に計11回出席した。



事前復興まちづくりサミット
2020 in 美波町



防災まつり2019



牟岐BOUSAICAMP

にしあわ学舎

事業のポイント

■にしあわ学舎は平成27年3月、三好市井川町（三好市役所 井川支所）に設置。県西部2市2町（美馬市、三好市、つるぎ町、東みよし町）を対象に地域を支える人材の育成や課題解決等の事業を行う。

事業の概要

1. 事業の目的

令和元年度にしあわ学舎事業として「3Dプリンターでマイミニ四駆をつくろう！」を開催した。その他、授業「実践・地域創生学」の履修学生による三好市山城町のお茶パッケージデザインや、留学生と地域の異文化交流を推進する多文化共生事業、住民団体「やましろ狸な会」への協力を行った。

2. 事業の取組状況

- 「3Dプリンターでマイミニ四駆をつくろう！」
（8月18日）

市民参加型のものづくりの促進、地域における先端技術の担い手の育成を目的とした親子工作体験教室として、美馬市地域交流センター ミライズで開催した。当日は、同じプログラムを午前と午後の2回実施し、徳島県内の小中学生と保護者41人が参加した。参加した小中学生と保護者らは、3D-CADソフトおよび3Dプリンターの使い方を学び、3D-CADソフトでミニ四駆のオリジナルボディをデザインし、3Dプリンターでそのボディを出力した。その後は、出力したボディを装着したミニ四駆を実際に走らせ、親子で楽しみながら3Dによるものづくりを学ぶ機会となった。



- 授業「実践・地域創生学」お茶パッケージデザイン

本プロジェクトでは、授業「実践・地域創生学」の一環として、徳島の地域が持つ魅力を知ると同時に、地域が抱える課題の解決に実践的に取り組むことで、自ら考え行動できる人材を育成することを目的として、三好市山城町で作られているお茶を題材として、地域の特徴を活かした商品コンセプトからパッケージのデザインに取り組んだ。

10月26日には、パッケージデザインの制作のため、実際に現地を訪れ、お茶を生産している農事組合法人山城茶業組合の工場や茶畑の見学を行い、担当者から生産に関するお話をうかがった。

その後は、得られた情報を基に総合科学部の佐原 理准

事業代表者・連絡先

山中 英生（人と地域共創センター・センター長）
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1
tel: 088-656-7651 fax: 088-656-9880
e-mail: cr-office@tokushima-u.ac.jp

教授と研究室の学生と協力しながら、魅力的なパッケージデザインの制作に取り組んだ。



- 多文化共生事業

本事業では留学生と地域の人々との異文化交流を通じて、多様な文化を話し合い、学び合うことで地域の多文化共生力を養い、産業や観光等の地域活性化に取り組んでいる。

本事業の一環として、前述の山城茶業組合の工場、茶畑の見学に留学生が参加した。加えて、参加した留学生達は、祖谷の伝統芸能のひとつ「襖からくり」の見学や祖谷の秘境料理「ひらら焼き」を体験した。

- 住民団体「やましろ狸な会」への協力（10月20日）

これまでも活動を支援している三好市山城町の住民団体「やましろ狸な会」の集会において、人と地域共創センター 松本 卓也地域共創コーディネーターが自身の経験をもとに話題提供を行った。



神山学舎

事業のポイント

■ 神山学舎は平成27年5月、神山町(神山バレー・サテライトオフィス・コンプレックス)に設置。若者に魅力ある地域づくり、持続する徳島づくりの未来設計プラットフォームを目指す。

事業の概要

1. 事業の目的

神山学舎では、総合科学部 佐原 理准教授を講師として「成層圏での次世代クッキングの可能性を探る」セミナーを開催した。その他、平成29年度からスタートした徳島の自然を暮らしに取り込むプロジェクトの一環である「地域と木とデザイン」と講演会や、自分のやりたいことを実現するための「空想からの生き方デザイン」神山プレツアーを開催した。

2. 連携協議会

- 「成層圏での次世代クッキングの可能性を探る」

セミナー（7月）

総合科学部 佐原准教授がこれまでに行ってきたバルーンを用いた成層圏からの地球撮影や干物の成層圏クッキングについて事例紹介を行い、地域に住む子どもから大人まで、幅広い方々に宇宙や科学技術を身近なものに感じてもらえる機会として、7月13日に神山学舎でセミナーを開催した。

参加者を交えたワークショップでは、成層圏へ飛ばしてみたい神山のものをテーマに、実現性等を踏まえて議論した。



7月24日には、まぜの丘（徳島県海陽町）から、岐阜県のベンチャー企業 GOCCO. の協力のもと、徳島県で取れた魚をバルーンで成層圏に打ち上げた。神山学舎でのセミナー参加者も一部、打ち上げの準備を手伝い、科学技術を身近に感じられる良い機会となった。回収した魚は成層圏の環境下で干物になっており、実験は成功した。



事業代表者・連絡先

山中 英生（人と地域共創センター・センター長）

〒770-8502 徳島市南常三島町1-1

tel: 088-656-7651 fax: 088-656-9880

e-mail: cr-office@tokushima-u.ac.jp

- 「地域と木とデザイン」と講演会（12月21日）

神山学舎事業として、徳島の自然を暮らしに取り込むプロジェクト「地域と木とデザイン」と講演会を徳島大学他言語交流コモラウンジで開催した。講師の鴻野 祐氏は神山に移住し、家具デザイナーとして活動していたが、その後フィンランドのアルト大学のウッドプログラムに1年間参加し、木の特性を生態学的、技術的、建築的な視点から探求してきた。参加者らは鴻野氏の話聞きながら、自分たちがどのように森林環境と向き合うことができるのか一緒に考えた。



- 「空想からの生き方デザイン」神山プレツアー（2月2日）

「空想からの生き方デザイン」は、学生を対象として自分のやりたいこと、自分にできることを神山町というフィールドで発見し、学び、実現していくプログラム。その一環として、神山でやりたいことを実現している先人達の生き方と生業の始め方を学ぶプレツアーを実施した。プレツアーでは、神山で個人事業主として事業を行うカフェオニヴァ、神山ビール醸造所等を訪問し、話をうかがった。参加した学生は、自分のやりたいことを見つけるため、実現するために真剣に話を聞き、積極的に講師に質問を投げかけた。

